

ていいこと、悪いこと」を判断の基準にしようと考えました。プリミティブな(素朴な)道徳観、倫理観しか持ち合わせていなかった私は、それを経営の判断基準にしていくしかなかったのです。

しかし、今にして思えば、「人間として正しいことを貫く」ということを企業経営の根幹に据えて経営を行ってきたからこそ、京セラは半世紀以上にわたり、経営の判断を大きく誤ることなく発展し続けることができたのだと思います。

西郷隆盛の「敬天愛人」精神に学ぶ

市長 その考え方は、郷土の偉人・西郷隆盛の書にある「敬天愛人」の精神に通じており、私が携わる市政運営・まちづくりにも当てはまる考え方だと思います。

稲盛さん そう思います。「敬天愛人」は、京セラの社是としていますが、私の執務室にもその書を掲げていますが、これは「道理を守り、人のために尽くす」という意味を持っています。私も、今お話ししたように、「人間として何が正しいか」という道理を守りながら、経営理念を追求すると同時に、人類、社会の進歩発展に貢献することと定めました。こうした、経営者の利己を離れた利他の精神に貫かれた大義名分を掲げることこそ、従業員の共感を得て、その理念のもとに総力を結集することができるのだと思います。そういう意味では、行政こそ市民の幸せや社会のために尽くすこ



稲盛 和夫さん

昭和7年、鹿児島市に生まれる。昭和30年鹿児島大学工学部を卒業後、京都の磚子メーカーである松風工業に就職。昭和34年4月京都セラミック株式会社(現京セラ)を設立し、社長、会長を経て、平成9年から名誉会長を務める。平成22年2月から日本航空(JAL)会長に就任。代表取締役会長を経て、平成24年2月から取締役名誉会長。平成23年7月に本市初の「鹿児島市ふるさと大使」に就任

まちづくりのリーダーとして「これから市民とともに」

市長 私は市長就任以来、一貫して「市民が主役の鹿児島市の実現」を基本理念に、市民とのパートナーシップを大切にしながら、市長の職責を全力で務めてまいりました。私の好きな言葉は「誠心誠意、人事を尽くして天命を待つ」ですが、稲盛さんのお考えと相通ずると思います。

稲盛さんには、本市第1号の「ふるさと大使」になっていただき、これまで未来を担う青少年への熱いメッセージや、職員への貴重な講演などをいただいております。鹿児島市民は稲盛さんのような偉大な先輩を持つことを誇りに思い、経済界での成功者としてだけでなく、人生の師として、稲盛さんの考え方や生き方に感銘を受け、勇気や元気をもらっていることでしょう。



市民文化ホールで開催された教育講演会 (平成24年8月22日)

稲盛さん 私のお考えは、昭和30年鹿児島大学工学部を卒業後、京都の磚子メーカーである松風工業に就職。昭和34年4月京都セラミック株式会社(現京セラ)を設立し、社長、会長を経て、平成9年から名誉会長を務める。平成22年2月から日本航空(JAL)会長に就任。代表取締役会長を経て、平成24年2月から取締役名誉会長。平成23年7月に本市初の「鹿児島市ふるさと大使」に就任



森 博幸市長

市長 私は、平成16年12月、周辺5町との合併直後に第20代市長に就任し、市政の柱に「環境」「子育て」「観光」「教育」「協働」の頭文字にある「K」をとった、いわゆる5つの「K」を重点政策に掲げ、市勢発展と市民福祉の向上に取り組みでまいりました。3期目がスタートしたところですが、今後は5つの「K」の推進はもちろぬ、新たに雇用・地域産業の振興を含めた「経済」と、医療・福祉の充実を含めた「健康」の2つの「K」を加え、7つの「K」について重点的に取り組んでまいりたいと考えています。私はこれからも「市長とふれあいトーク」などさまざまな機会を通じ、積極的に市民の皆さんと直接意見交換をするなど、市民との協働連携を進めていきたいと

稲盛さん 私はふるさとが鹿児島市であることを誇りに思います。今の私の原点は、鹿児島市の

愛する鹿児島のために「ふるさと大使として」

市長 今年度、平成33年度を目標年度とする第五次鹿児島市総合計画がスタートしました。その目指す都市像には「人・まち・みどり みんなで創る」豊かさ「実感都市・かごしま」を掲げています。その実現に向けて、市民一人ひとりの鹿児島に寄せる愛情と将来にかける熱い想いや行動力を結集して、次の世代に「つなぐ」、国内外の都市と「つながる」、世界に「つ



市民文化ホールで開催された教育講演会 (平成24年8月22日)

稲盛さん 私のお考えは、昭和30年鹿児島大学工学部を卒業後、京都の磚子メーカーである松風工業に就職。昭和34年4月京都セラミック株式会社(現京セラ)を設立し、社長、会長を経て、平成9年から名誉会長を務める。平成22年2月から日本航空(JAL)会長に就任。代表取締役会長を経て、平成24年2月から取締役名誉会長。平成23年7月に本市初の「鹿児島市ふるさと大使」に就任

すべての市民が「豊かさ」を「実感できるまちづくり」

市長 心温かい、そして大変心強いメッセージをありがとうございます。

稲盛さん 改めて今年度は、森市長さんは3期目のスタートの年ですね。これまでの2期8年間の取り組みを踏まえて、これからの4年間、どのような市政運営とまちづくりを進めていかれるのか決意をお聞かせください。

市長 ありがとうございます。稲盛さんとお話して、改めて市政を担う者として、その責任と役割の大きさを痛感するとともに、大きな勇気とパワーをいただきました。これからも市民の皆さんとともに、市民目線で市勢のさらなる発展と市民福祉向上のために全力を尽くしてまいりたいと思います。

市長 ありがとうございます。稲盛さんとお話して、改めて市政を担う者として、その責任と役割の大きさを痛感するとともに、大きな勇気とパワーをいただきました。これからも市民の皆さんとともに、市民目線で市勢のさらなる発展と市民福祉向上のために全力を尽くしてまいりたいと思います。

市長 ありがとうございます。稲盛さんとお話して、改めて市政を担う者として、その責任と役割の大きさを痛感するとともに、大きな勇気とパワーをいただきました。これからも市民の皆さんとともに、市民目線で市勢のさらなる発展と市民福祉向上のために全力を尽くしてまいりたいと思います。

稲盛さん 今後の取り組みを大いに期待します。ところで、今日、わが国は少子高齢化が急速に進み、人口減少局面に移行する中で、国も地方も将来に向けて、持続可能な社会保障制度の構築、環境問題への対応、財政健全化など、難しい課題が山積しています。鹿児島市でも、市政運営やまちづくりにさまざまな課題があると思いますが、いかがでしょうか。

市長 地方分権が叫ばれて久しく、本市を取り巻く環境も年々厳しさを増す中で、自らの責任と判断に基づき、主体的で迅速な対応がますます肝要だと思えます。時代の潮流を踏まえ、柔軟な「変化」と、時代を先取りした力強い「挑戦」が求められていると感じています。稲盛さんは、世界市場で企業運営を行う難しさを経験されていることだと思いますが、地方自治体の運営に対して、何かアドバイスなどがありますでしょうか。

稲盛さん 改めて今年度は、森市長さんは3期目のスタートの年ですね。これまでの2期8年間の取り組みを踏まえて、これからの4年間、どのような市政運営とまちづくりを進めていかれるのか決意をお聞かせください。